

趣
意
書

一八六三年スイスのアンリー・デュナンという一介の青年によつて創められた赤十字の事業は、国境、政治、宗教、人種等の一切を超越した万人平等無差別の精神に則つて今日の発展を遂げ、日本赤十字社もまた赤十字連盟の一員となつて幾多の人道的使命を果してきたところであります。

最近におきましては、アフリカ干ばつ被災者救護、バングラデシュ洪水被災者救護、インドシナ難民救護、或いはまた新興各国に対する開発援助等の国際活動に力を注ぐとともに国内にあつては、昨年の伊豆半島沖地震の被災者救護、太平洋沿岸各県の集中豪雨被災者の救援等の活動が行なわれ、日赤当面の重要事業になつておりますことは既に報道によつて内外周知の通りであります。

以上の臨時業務のほか、日赤鳥取県支部における平時業務の現勢を一瞥いたしますと、医療施設や災害救護装備の整備運営をはじめとし、人命救護のための救急法、水上安全法、家庭看護法等の三大講習の普及、献血事業の推進等当局の積極的施策によつて著しい業績があげられておりますものの、今日文化の発展は目まぐるしいものがあり、昨日の施設整備必ずしも新鋭とは謂い難い情勢にありまして災害救護装備の如き過去の災害の深刻悲惨な状況に照せば更に近代化につき考慮が払われなければならないと思つてあります。

目下世界の平和は辛うじて維持されつつあるとは謂え、内戦或いは災害による難民の続出は世界最大の関心事であります。これとともに人々が人道博愛の精神を身につけることは人類福祉の増進に、ひいては世界平和のために極めて大切なこととあらざり赤十字も

また飛躍すべき秋との感を深くするものであります。

偶々本年は、本県における赤十字活動の本拠ともいふべき支部庁舎の完成をみたが、これを機に、今後益々の赤十字事業の充実進展を期待する意もあつて赤十字協力の先駆者としての誇りをもつ、かつて紺綬褒章或いは赤十字有功章を受け協力を尽してきた県内における我々が相糾合して鳥取県赤十字有功会を結成し会員相互の親睦を図る傍ら日赤の有力な支援者となり、赤十字の人道的任務を通じて人類福祉の増進に寄与することができまますならば紺綬有功の面目愈々あがり、まことに意義深いものがありましよう。

各位の奮つての御賛同御入会を切に期待してやまない次第であります。

昭和五十一年一月 日

発 起 人 (五十音順)

有限会社足立わたふとん店

社 長 足 立 利喜雄

西伯郡西伯町

町 長 磯 田 俊 二

東部振興株式会社

社 長 金 田 文 夫

倉吉総合御センター

理事長

鹿嶋住吉

株式会社河田組

社長

河田賢一

有限会社河金組

社長

河金敬儀

米子商工会議所

会頭

坂口平兵衛

山陰合同銀行鳥取支店

常務

平井澄

株式会社山陰放送

社長

青砥昇

大山証券株式会社

社長

今井敏郎

鳥取銀行本店

頭取

八村信三

有限会社中尾建材店

社長

中尾信太郎

日本きのこセンター

理事長 常田 修

株式会社扶桑相互銀行

会長 古田 四郎

日赤鳥取市地区修立分区

分区長 森本 直蔵

西伯郡岸本町

岸本町長 矢田貝 顕造

鳥取商工会議所

会 頭 米原 穰

株式会社米子製鋼所

社 長 永東 忠寿

医療法人 養和会 広江病院

理事長 広江 弋

日本赤十字社鳥取県支部

事務局長 岩田 俊夫